

詩画集
 〈育むというこ〉 (親と子の絆を深め合う道程
 広木克行著 卯)

<H.31.1.20>

◎ 医学がまだ今日ほど発展していなかった時代には、
 人々は子どもの誕生を今より、と謙虚にとらえていて、
 「授かる」という言葉を使っていた。
 しかし、今日、人々は子どもを「作る」という言葉を
 口にしてます。
 その言葉の裏には自分の意志で作ったのだから、
 子どもは自分の思うように育てようという、
 子どもに対する傲慢な考えが、
 潜んでいるのではないのでしょうか。
 子どもはやはり作りものではなく授かるものなのです。



◎ 小さい時にはお母さんに甘えるのが子どもの仕事です。
 お母さんと一緒にいて、安心を経験する中で、
 はじめて「私」が育つからです。
 「私」が育つ前に、
 文字とか英語とかの知識が植えつけられた子どもは、
 一見、賢く見えたとしても、
 「心」が空洞のままになりやすいのです。
 子どもの育ちには順番があります。
 昔の人が教えてくれた通りに、
 身体が育ち、心が育ち、頭が育つという
 順番を大切にしていこうが、
 子どもを育ていくのには、ふさわしいのだと思います。

◎ 布おむつをしていた時代は、
 子どもが泣けばおむつが濡れていないかと思って、
 母親は自分の仕事の手を止めて
 子どもの世話をしました。
 その中で自分のリズムを一時止めて子どものリズムに合わせ、
 また自分のリズムに戻るといふ母の心を身につけてきました。
 紙おむつという便利なものが出てきた中で、
 いつしかその心が忘れられ
 親のリズム中心の子育てになってはいないのでしょうか。
 子育ては、ものを作り仕事とちがいます。
 素早く、効率的にできるものではなく、
 手間と時間がかかるといふのです。
 子どものリズムに合わせてながら
 巾、リと同じことをくり返す中で
 少しずつ子どもは育つのです。



◎ 保育とは、子どもの丸ごとを育てること。
 しっかりとした身体の育ちを支え、
 心豊かな人間関係を育て、その上に、
 素敵な文化を通して知的発達を促す
 という奥の深いものです。
 子どもの人生を豊かなものにするためには、
 今なにが必要かを判断し、
 日々、選び続けなければなりません。が、
 子どもに関わるすべての者は
 そのために学ぶ必要があるのです。